

# チャレンジ工房News

第71号

平成29年2月発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

イラスト Aya・keiko

## 工房の日々 モノづくりの絆市に参加してきました…

2月4・5日とJR尼崎駅前の「キューズモール」で、障害者就労支援施設のオリジナル自主製品を販売する即売会「モノづくりの絆市」がありました。

今年も尼崎・西宮市内から約10カ所の地活センターや就労支援B型の事業所が集まり、それぞれの事業所で作ったクッキー・パンや手芸品などの雑貨小物が販売されていました。

当工房もポストカードや4月始まりのチャレンジ美術館カレンダー、花言葉カレンダーの定番商品に加え、桜・きつね・お地蔵さんなどの「和のオリジナルイラスト」を描き、便せんとして和紙のコピー用紙に印刷して、和紙の封筒とセットにした「和紙のレターセット」を新製品として販売しました。

この絆市の目的は、二つの目的があり、1つは一般市民の方々に、障害者就労支援施設の存在を知ってもらい自主製品を1人でも多くの方に購入して頂くことです。



もう1つは実際オリジナルの自主製品を販売する私たち職員側の「販売する商品の質の向上」や「販売時のディスプレイや接客などの適切なコミュニケーション方法」を実践的な販売会を通じて学びことでスキルアップさせて工賃アップに役立っていくことを目的とした研修会を兼ねています。

そんな1つ1つの製品の質はもちろん、包装の仕方や販売時のディスプレイなどのレイアウトデザインが問われる研修会を兼ねた販売会であったり、「キューズモール」という洒落た雑貨店が立ち並ぶショッピングモールでの販売会なので、よつほど

こだわりをもって、お客様の購買力を誘うようなデザイン力があるオリジナリティがあふれるポストカードやカレンダーを作り上げていかないとなりません。

去年の暮れは、カレンダーや年賀状の注文販売などで所員・スタッフともにバタバタしていて、絆市に向けての製品作り、準備期間も実質1ヶ月足らずしかありませんでした。

「1ヶ月」という期間で、今年の1月～3月のカレンダーのイラストを刷新して、4月始まりのカレンダーにして刷り直すことができるのか、ポストカードも新商品の和紙のレターセット2日間の販売に見合った数を用意できるのか心配でした。Ayaさんもスタッフも一体となり、夜遅くまで工房に残ったり、個々の自宅で連日の夜通しの作業をしたりして、4月始まりのカレンダーに刷新することができたり、ポストカードもレターセットもなんとか予定していた数量は揃えることができました。

絆市当日、通りかかったお客さんから「パソコンでこんなイラストが描けるなんか凄い」「お地蔵さんのイラストがほんわかしていていいなあ」「チャレンジ美術館カレンダーのイラスト可愛いね」と口々に言って頂くことができ、嬉しいことに、「和紙のレターセット」は一目で完売し、ポストカードもカレンダーもほとんど売り切ることができました。

また有り難いことに、「猫や犬とかのポストカードがあればよかったのに・・・」「卓上カレンダーの重さもう少し軽ければいいのに・・・」という率直な意見も多数頂きました。

そのような貴重な意見も大切にしつつ、イラストや写真加工技術もレベルアップさせていき、より良い製品づくりを目指していきたく考えています。

## 2月・3月の日程

2/4(土)～2/5(日) モノづくりの絆市  
キューズモールあまがさき

10:00～16:00

3/4(土) うず潮まつり

大庄支所

10:00～13:00

※東北作業所の品物と当工房のオリジナル製品、イラストカレンダー、ポストカード、和紙の便せんを販売する予定です。

3/9(木) 尼うえるフェア  
市役所1F ロビー

10:00～15:00



## 連載企画 所員・スタッフによるリレーコラム

今回で3回目となるリレーコラムは、当工房開所当時よりほとんど毎日のように、軽トラックの自家用車にマイパソコンを積んで来られて、主にwordを熱心に勉強されている甲斐さんを書いて頂きました。

梅一輪一輪ほどの暖かさ。春がまだまだ遠い。今年も猫とこたつを取り合っています。

「蝉しぐれ」の作家の藤沢周平さんが、亡くなり20年になります。「裏梅」という家紋がある。

梅の花の後ろ姿を図案化している。

前から見る梅の花は、しべが合ってにぎやかだが、裏ではがくがひっそり花びらを支えている。

桜のように、我が世の春を咲き誇るわけではない。

身の凍える風雪の中で、ほころぶ梅の花の後ろ姿は、独特の風情がある。

思えばその人も、市井に暮らす人々や下級武士の哀歓を描いた作家である。【寒梅忌】

パソコンも2台目。賢いこのパソコンを勉強中 難しい…

多々ありますが命と最後まで、ゆっくり確実に身につけたい。

親切な先生方に感謝いたします。



甲斐 勝利

甲斐さんは、第二の人生のチャレンジとして、当工房が開所したのと同時にパソコンを始められました。

通所されて、間もない頃はパソコンの電源の入れ方、ローマ字入力でのテキストの入力などの1つひとつのパソコン操作が初めてのことばかりで、Wordでの簡単な文書作成も悪戦苦闘しながら必死にされていた感じでした。

「パソコンの電源の入れ方」や「ファイルの保存の仕方」などの「パソコンのいろは」が分かかってきた頃、1台目の「Windows 7」のノートパソコンを買われ、それ以来、通所されるたびに毎回、ご自身のノートパソコンを持って来られて、Wordのテキストやドリルを反復されながら熱心に勉強されています。(ドキュメントがwordの学習データファイルでいっぱいになるほど・・・)

その甲斐があって、今ではご自身の工務店の請求書をWordで作られたりするぐらいの腕前までになりました。

長年、営んで来られた工務店の仕事もやっと一息つき、今年の年明けには「Windows 10」の新しいノートパソコンに買い替えたので、今度は是非「パソコンの職人」を目指して甲斐さんのペースで楽しみながらして貰えたらと思っています。

### 1・17 防災訓練に参加しました

私たち兵庫県民にとって、決して忘れることはできない22年前阪神大震災がおきた1月17日に市内6地区に分かれて、「1・17を忘れない防災訓練」があり大庄地区は大庄中学校にて行われ、曲・広瀬が参加してきました。

南海トラフ地震時に起こり得るだろうとされている地震発生後約110分後に尼崎市内に3m~5mの津波が押し寄せてくるという想定で校舎の3Fまで避難する「津波一時避難訓練」がありました。

今年も例年と同様、大庄地域の消防団の方5人で車いすごと校舎の3Fまで抱えて上がってもらいました。

この訓練は、工房設立以来毎年参加させて頂いているので、消防団の方々にも顔なじみになって貰えているようで、「車いす替えたの 新車になっているね」など親しみを持って声をかけて頂きました。

顔なじみになって、災害時「いざ」というとき消防団・地域の方々に助けて頂くためにも日頃から地域の防災訓練に参加することが大事だと改めて感じました。

その後、体育館にて「だれでも手軽にできる応急措置の方法」について消防士の方の実施指導があり、最後に参加者全員で「阪神震災」で犠牲になられた方々へのご冥福を祈り黙とうをしました。

